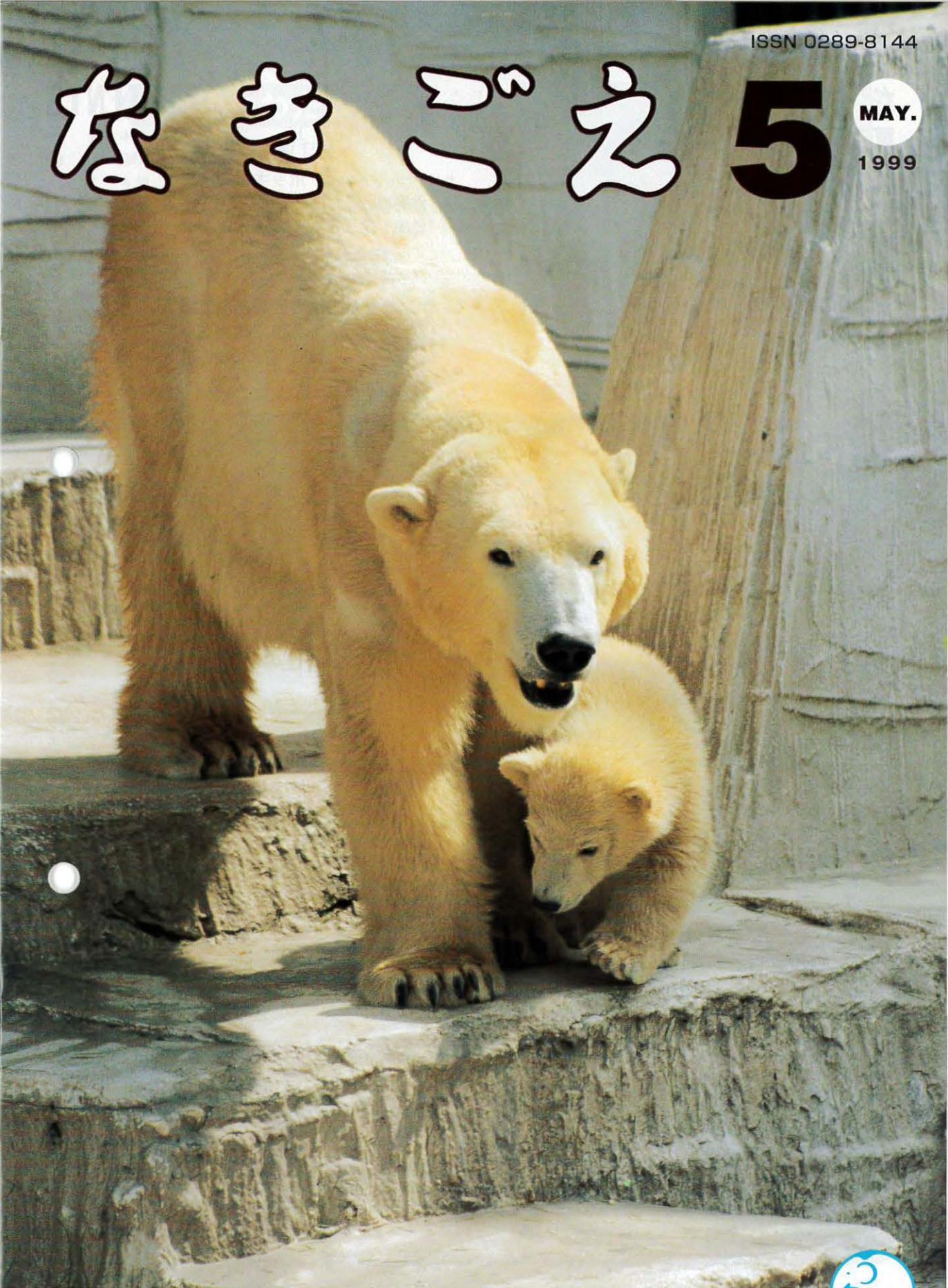


なきごえ

5

MAY.

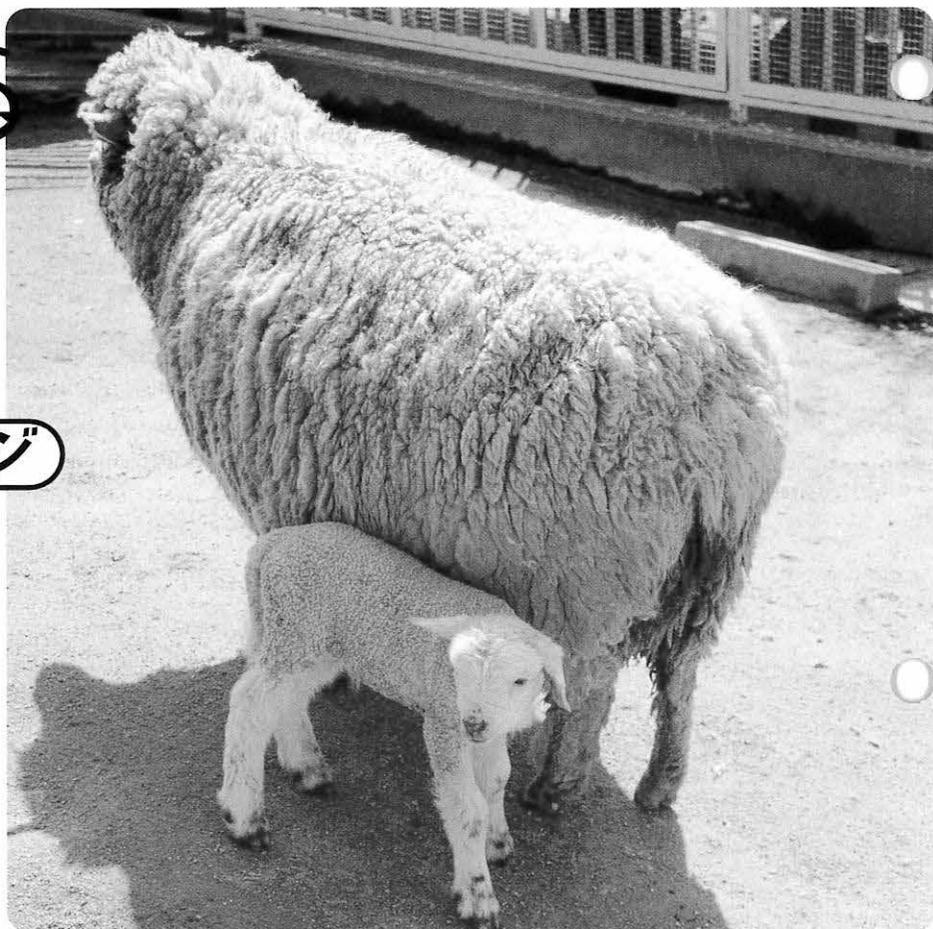
1999



CONTENTS

New Face	ヒツジ	坂本 全	②
	動物とわたし	笑福亭伯鶴	③
カバーウォッチング	ホッキョクグマ	坂本 全	④
生駒山麓・池島地区のカワセミムーブメント		堀江 進	
『池島・福万寺カワセミ楽会』発足		堀江 洋子	
		中村 敬子	
	新しいサイ舎になって	仲谷 登	⑥
	グラフZOO 新サイ舎	西村 慶太	⑧
	ケンちゃんの好きやねん動物園	松葉 健	⑩
	ZOO DIARY	竹田 正人	⑪
	ZOO INFO	坂本 全	
		中上 正幸	

New Face



ヒツジ

(ウシ目 ウシ科)

今年の2月23日と3月12日に2頭ずつ、計4頭のヒツジが生まれました。5月30日の「ヒツジの毛刈り」の対象にはなりません、大人のヒツジの毛刈りは行ないますのでお楽しみに。

(撮影・文：坂本 全)



園長就任にあたって

本年4月1日に天王寺動物園長を拝命いたしました。天王寺動物園長の名称は平成2年に動物園と公園の統合で、その名称が途絶えていましたが、9年ぶりにその名称が復活いたしました。今後はこの名称に恥じないようますます精進研鑽に励み、天王寺動物園の設備計画「ZOO21計画」を充実、推進させ、すばらしい動物園にしていきたいと考えております。

天王寺動物園長 中川 哲 男

動物とわたし

-どうぶつエッセイ-

笑福亭 伯鶴 さん

(落語家)



私は、中学1年生まで、近鉄線長瀬駅から歩いて5、6分ほどの所にある、市営住宅に住んでいました。お向かいは個人の民家で、大館さんというお宅でした。この大館さんでは、今はほとんど見かけなくなった犬種で、スピッツの『ふく』と言う、真っ白い雌犬を飼っておられました。

この『ふく』と私は、同じ昭和32年生まれ。ところが、人間の赤ちゃんより犬の方がずっと成長が早いので、私が2歳になった頃には、もう立派な大人の犬になっていました。

ある日、夕方になっても、表へ遊びに出た私が帰ってきません。心配した母親は、近所中を探し回ったそうです。ところが、どこを探しても見つかりません。その頃は、大館家と我が家は、さほど親しくなかったのですが、声をかけて庭へはいると、私は『ふく』の犬小屋で、『ふく』に抱かれてすやすやと眠っていたそうです。『ふく』は、母性本能で、私の母親か保護者にでもなったつもりだったのでしょいか。この事件があつてか

ら、我が家と大館家はすっかり親しくなったそうです。『ふく』が両家の縁を結んでくれたんですね。

この『ふく』。大館家の人達が散歩に連れていくと、鎖を引っ張って全力疾走するのです。ところが、目がみえない私と散歩に行くと、誰も仕込んだ訳でもないのに、まるで盲導犬みたいに、ぴったりと横に引っ付いて、溝や階段の手前へやって来ると「ワン」と鳴いて、いったん立ち止まるのです。その当時は、日本には盲導犬なんて1頭もない時代ですから、犬が目の見えない子供のサポートをするなんて、とても考えが及ばない時代です。周りの大人達は、ほんとうに不思議がっていました。

今考えると、不思議です。でもきっと、私と彼女との間には、世の中の常識や科学では説明が出来ない『何か!』があったのでしょ。

(しょうふくていはっかく)



ホッキョクグマ

Cover Watching

ネコ目 クマ科 *Thalarctos maritimus*

北極圏に生息し、アザラシなどを主に捕食しますが夏期には海藻なども食べます。当園では昨年11月にオスの赤ちゃんが生まれ、3月より一般公開と同時に名前を募集しました。6月には命名式もありますが、どんな名前に決まるのかとても楽しみです。

(撮影・文：坂本 全)

生駒山麓・池島地区のカワセミムーブメント ～『池島・福万寺カワセミ楽会』発足～

池島・福万寺カワセミ楽会 堀江 進・洋子／中村敬子

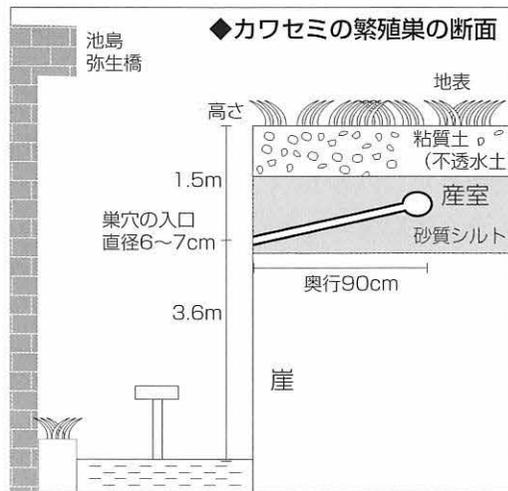
私 たちがカワセミと出会うきっかけとなったのは、生駒山の麓、東大阪市池島と八尾市福万寺にまたがる湿地で、弥生時代から延々と、田んぼとしてのみ利用され続け、今でもなお条理制の名残りがうかがえる全国的にも珍しい地域です。また、今は恩智川と第二寝屋川がすぐそばを流れ、秋冬はカモたちが集い、シギやサギなど多くの渡り鳥の休息場所としても野鳥の楽園と呼ばれるほど豊かな土地でもあります。春夏は、パン、ケリ、コチドリ、オオヨシキリ、タマシギ等々、稀少種を含む多くの鳥の繁殖場所にもなっています。

カワセミの営巣を確認したのは、2年前の春。現在建設中の治水緑地公園の工事現場の垂直に切られた土手にわずか、6cmほどの穴が掘られていました。

そして次の年の3月、再び繁殖シーズンがやって来ました。完成したばかりの弥生橋から、すぐ見下ろせ、観察するには非常に好都合なところに2つがいが巣穴を掘りました。朝夕はもちろん、昼の空き時間も、双眼鏡片手に、なるべく鳥に負担がかからないよう、そっと観察を続けました。『カワセミ楽会』が発足したのは、まさにこの頃、それぞれが見近な自然の素晴らしさを改めて見つめ直すきっかけとなりました。

雄が、熱心に雌のもとへ小魚のプレゼントを繰り返して、求愛します。最初に交尾行動が確認されたのは3月20日、その15日後に抱卵し始めました。雄雌が抱卵を交代するときは、いったん巣穴のそばの止り木（鉄筋や、工

事区画用の杭であったりもするのですが…）に止まりチーと短く鳴いて、交代を告げ、呼び出します。雌は下のくちばしが口紅をつけたように赤いので、すぐに見分けられます。抱卵から20日目の4月24日、巣の中へ小魚を運び始めました。ついにヒナが孵化したようです。餌は、雨などで水面が見えにくく、小魚が獲れない時は、ザリガニやカエル、ヤスデなども運んでいました。また、どこで調達してくるのでしょうか、金魚もよくわえてきました。



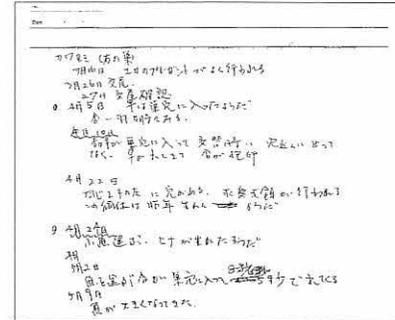
◆カワセミの繁殖巣の産室
球形状の産室の直径は約16cm。巣材のようなものではなく、ヒナが消化できずにペリットとしてはきた魚のエラやウロコ、カエルの骨らしきものなどが堆積していた。（協力：大阪府文化財調査研究センター）



◆池島弥生橋からの風景

◆（右）カワセミの求愛行動
雄が雌へ餌のプレゼント。一日に何度も繰り返される。（右がメス）
（撮影：松浦 幹夫）

◆（下）繁殖記録ノート
堀江 洋子さんによって繁殖の様子などが克明に記録されている。



雄 雌共同で、朝6時前から、日中を問わずひんぱんに給餌が行われました。ヒナの成長につれ餌のサイズも大きくなっていきます。餌を巣穴へ運ぶ前には、魚をしっぽのほうからくわえ、頭を何度も何度も足元の固い地面などに打ち付け、ヒナが飲み込みやすいように弱らせます。孵化後、間もなく、親が給餌のため巣穴に入ると2分位出てきませんでしたが、雛が育つにつれ、わずか7、8秒で、おしりから飛び出して行くようになります。面白いのは、巣穴から出ると必ずすぐ、何度も水へ飛び込み、足を洗います。

いよいよ巣立ちの日が近づくにつれ、ピタリと餌を運ぶ回数が減りました。そして予定通り5月15日の早朝、5時すぎに最初の1羽が巣の前で親が見せびらかす小魚のおとりに促されて巣立ち、その後次々と約1時間の間に計7羽の雛が巣立ちました。巣のそばで親鳥に向かって、しきりに頭と尾羽を持ち上げる行動を繰り返す雛は脚の色が黒い（親は赤色）、くちばしが短い、羽色が煤（すす）けたように黒い等を除けば、大きさは、逆に親鳥より大きいくらいに感じられます。このカワセミのペアは、その後またすぐそばに巣穴を掘り、2度目の繁殖にも成功。計5羽の雛を巣立たせています。また、100mほど離れた同じ壁面に、もう1ペアが同じ巣を使って、2回繁殖しました。この巣は、工事の掘削作業を中断して頂きことなきを得ました。この年は、ここだけで計19羽のカワセミが巣立つことが出来ました。

の周辺も宅地化が進み、川は汚れ、ヨシ原は刈り取られ、生物にとって生息環境

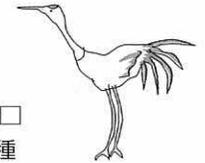
は、目に見えて劣悪になっています。巣立ったヒナは、4～5日で親から離れ、ひとり立ちし始めますが、果たして何羽が生き残れるのでしょうか。

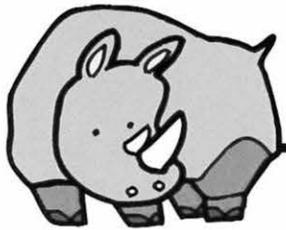
自 然というと、森の奥深い風景や、渓谷を思い浮かべられる方が多いと思いますが、少し注意して見渡してみると意外や意外、カワセミのような鳥でなくても私たちの生活のすぐそばで、小さな命が息付いているはず。そしてそれらから及ぼされる人間の快適な生活の影響は図り知れません。これからは、自分たちの生活について考えつつ、身近な自然を通じて、多く学ばせてもらいたいと思います。

（池島・福万寺カワセミ楽会
ほりえすすむ・ようこ/なかむらけいこ）

◆池島・福万寺地区の主な野鳥

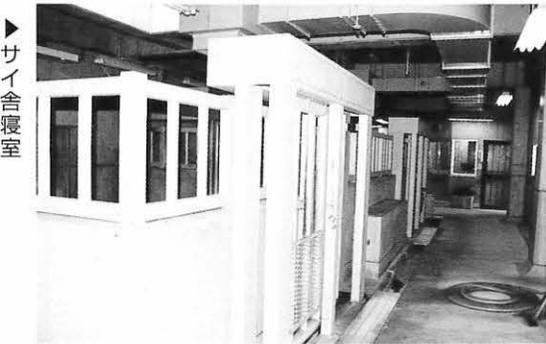
- カワラヒワ □シメ □アオジ □イカル □ヒレンジャク □ツリスガラ □オオジュリン □セッカ □オオヨシキリ □ココシキリ □ハクセキレイ □モズ □ケリ □タヒバリ □タゲリ □パン □クイナ □ヒクイナ □カイツブリ □コシアカツバメ □ショウドウツバメ □ホオジロ □ホオアカ □メジロ □ノビタキ □ジョウビタキ □シロハラ □ツグミ □ユリカモメ □オオタカ □ハヤブサ □チョウゲンボウ □ノスリ □アオバズク □フクロウ □コミミズク □コチドリ □タシギ □タマシギ他シギ類10種 □サギ類7種 □カモ類10種





新しいサイ舎になって

昨年7月に待ちに待った新サイ舎が完成しました。総面積2,550m²(旧サイ舎の1.5倍)、鉄筋コンクリート造、プール付の一戸建てで放飼場も2面あり、通常入園者の方々に見ていただくメインパドックの他に、外から見えないサブパドックもあります(なきごえ34巻11月号P6~9参照)。旧サイ舎ではキツネ類、バク、マウラ等が同舎内に雑居的に通路ごしに居住し4世帯住宅のようでしたが、新サイ舎では第1号入居者となるオスのトミー(17才)、メスのサッチャン(27才)の2頭のみです。旧サイ舎では、雨の日などは暗くてジメジメとしており、一日中サイのいるフロア一部分や通路も乾きが悪く、放飼場も以前は動物舎側以外180度3方向から見られるのに対し新サイ舎は、2方向2カ所のビューポイントと呼ばれる観察ポイントだけで、サイにとってはゆったりと出来る放飼場になっています。しかも入園者の方からはまったく見えない出入口の前がサイにとっては最高のリラックスポイントになっています。これ以外にも以前は手動で開閉していた扉が作業用出入口扉(飼育係が使用する出入口、餌(えさ)の搬入扉、掃除用扉)以外のサイが使用する、寝室移動用扉、通路間、サブパドック、メインパドック出入口扉等はすべて電動の油圧式自動扉になっています(もちろん目で見ながらやモニター画面を見ながら私がボタン操作で開けるのですが)。また



サイ舎寝室

舎内にいながらパドックのようすや通路でのサイの行動がいつでも見られる屋内外監視カメラも備えられています。



管理室・モニターを見ながらドア操作ができます

さて新しいサイ舎が完成し、引越してから今日までの事ですが、完成したからと手放しで喜んでいたのもつかの間で、今日まで引越してからまだ8カ月しかありませんが、いろいろな事がありました。昨年(1998年)9月1日(火)に旧サイ舎より、オスのトミーとメスのサッチャンを同日中に、なんとか2頭共引越用のオリに入れ、無事新サイ舎に運ぶには運んだのですが(なきごえ34巻10月号P8・9参照)、頭の方から部屋に入ると、急に扉が開いた事やオリから出られる解放感で一気に走り出し壁に角(つの)をぶつけて折れたり、サイが傷つく事も考えられるため、あえて後ろ向きに出す事にしたのですが、運搬中怖がって暴れないように気持ちを落ち着かせる薬を注射していた事もあり、いつもはすぐにバックしてしまっただけなのですが、その日はなかなか後ろには動いてくれず、それぞれオリから部屋に出るまでに1時間程もかかってしまいました。それぞれ一頭ずつ部屋があり、室内に慣れやすく、落ち着かせるために、1カ月前より各自の糞(ふん)を新しい壁や床、通路にまで私がバラまいて臭(におい)付けをしていたため、部屋までは意外とスムーズに、その糞の道を通って入室させる事が出来ました。自動扉の開閉の音も使用していない部屋の扉を私が開閉しながら通って見せたり、声をかけたりしながら1日に何度か見せたり聞かせたりで2~3日でわりと慣れてくれました。その後部屋移動、部屋から通路(メインパドック、サブパドックまで)間移動と毎日オス・メス交代で練習を1

A day of rhinoceros house

飼育課・クロサイ担当：仲谷 登

週間続け、いよいよ入園者の方々に見ていただくためのメインパドックへの初放飼の練習日(9月7日)にまでこぎつけたのでした。

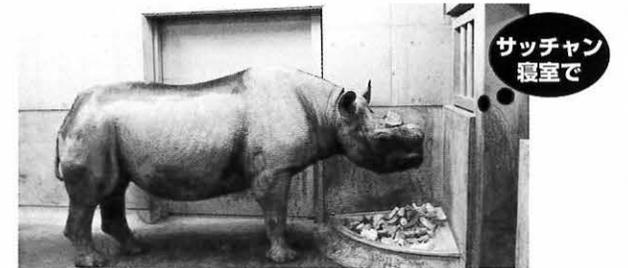
朝から2頭共に機嫌(きげん)も良く、とりあえずあまり神経質ではないメスのサッチャンから、放飼練習に出そうと思い、寝室、通路と自動扉を開放していきました。もちろんその通り道は前記の糞の道をしっかりと付けておいたのです。サッチャンは周囲を気にしながらも、ゆっくりと思い通り1回でメインパドックまでノッシ、ノッシと出てくれました。久々の土の感覚、周囲のようすや臭い、草木や風に角を上げたり土の臭いを確かめながらもリラックスモードで、観察している我々もやっと安心して始めたその時でした。フン！ザザザッ！大きく鼻を鳴らし、すり足でバックする音と共に360度ターンしては角を振り回し続けています。ちょうどパドックの東側には空堀とスロープがあり、安全のために電気柵が設置されてある所でした。堀を見るつもりが柵のラインに角がふれたのでビリッときたのです。その後サッチャンは初めての体験と見えない敵に向かって一直線にパドックを走り、西側の擬岩(ぎがん)に思いっきり角をぶつけてしまいました。結果は今思い出してもゾッとする事態で、角は一撃の下に根元から折れ、血が噴き出しました。それでも何度も擬岩や自然の石に折れてしまった角の部分で攻撃を続けました。もうここまでになってしまうと、誰も止める事は出来ず、仕方なく麻酔が射(う)たれました。少し麻酔がかかり始め、サッチャンが暴れなくなった頃をみはからって、私が通路まで行き大声で呼び寄せました。ゆっくりとサッチャンは声に反応し、何と自力で自分の出て行った寝室までもどって来てくれました。目はうつろで、折れた角の部分からはまだ血が流れ続けています。室内で声をかけなだめるようにしていると5分程で壁にもたれるようにスースーと立ったまま寝てしまいました。麻酔が効き始め気持ちも落ち着いたからなのでしょう。

その後、止血から始まり、化膿止めなどあらゆる治療が行なわれました。9月7日



トミー 屋外放飼場にて

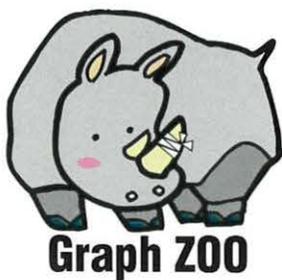
この事故より約3カ月間治療と投薬が毎日の仕事の一部となってしまい、サッチャンも約2カ月半の室内生活になってしまいました。その間、新サイ舎オープンでの一般入園者の方々への公開予定日も1カ月遅れとなり、オスのトミーだけで展示練習を10日間続け、10月17日にトミーだけのさびしい一般公開となってしまいました。それ以後サッチャンの傷も12月には、ほぼ完治しサブパドックへの放飼、メインパドックへの放飼再練習と少しずつサッチャンの事故のストレスをほぐしながら、今年1月2日よりやっと当初の9月から数えて4カ月遅れでのオス・メス2頭での一般公開展示になったのです。引



サッチャン 寝室で

越しからオスのトミーとメスのサッチャンには何かと怖い思いや不安を与えてしまいましたが、今では2頭で、パドック中を走り回ったり、思いつきドロ浴びや背ズリ、角つきなど、以前の旧サイ舎では見られなかった行動も多く見られ、最近では、入園者の方々のすぐ目の前まで寄って行っては子供達を少し驚かせたりもしています。これから暑くなり始めると目の前でプール遊び、水浴びシーンも日によっては見られる事でしょう。

希少動物であるクロサイをもっと楽しく、身近で皆さんに知っていただき、野生のクロサイ共々守っていければと思っています。来年にはまた親仔で走り回る所も見ただけのかもしれませんが、天王寺動物園に来られる折には、サッチャンの角が少しずつ元の立派な角になっていく所を見てやってください。(なかに・のぼる)



新サイ舎の1日

A day of rhinoceros house

私はクロサイのサッチャンです。私たちの新しい家は見えてくれた? でも、私たちクロサイは大きな体に似合わず、とても神経質で臆病なの。だから新しい家になれるまでたいへんだったのよ。今回は私サッチャンと夫のトミー、そして私たちの世話をしてくれている仲谷さんの1日をご紹介します。

写真・文:西村慶太



おはよう

am 8:30

いつもの声をかけながら仲谷さんが来てくれたわ。仲谷さんには私たちの言葉はわからないけど、こうやって私たちをさわりながら、私たちの気分や体調を確認してくれるの。



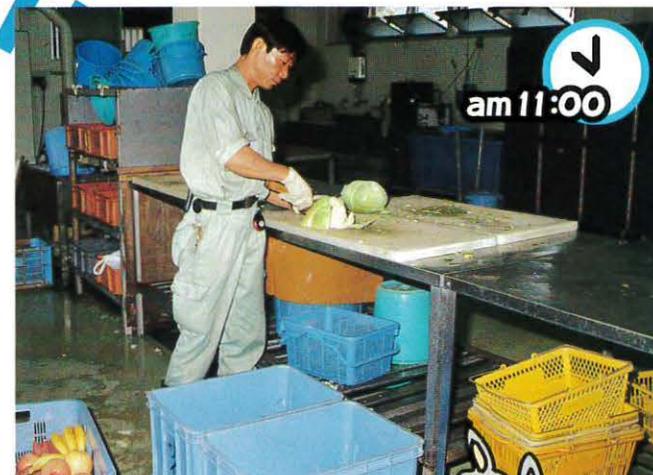
am 9:00

サッチャン (メス)

その後、私たちは寢室から運動場、つまり皆さんから見える展示場に出ます。今日はどんなお客様が来るのかしら。



私たちが展示場に出た後は寢室の掃除。私たちは体が大きい分、糞(ふん)も多いからたいへん!!



am 11:00

掃除がすんだら次は私たちの食事作り。私たちの食事は野菜類や果物、牧草類、木の枝、固形飼料など。

でも量はすごいわよ。



おつかれさま 明日もヨロシク



仲谷さん

すべての作業が終わったら私たちや機械を点検し、今日の出来事を日誌に書いて1日が終わります。ごくろうさま。こんな風に飼育係の人たちは毎日私たちの世話をしてくれているの。



pm 4:30

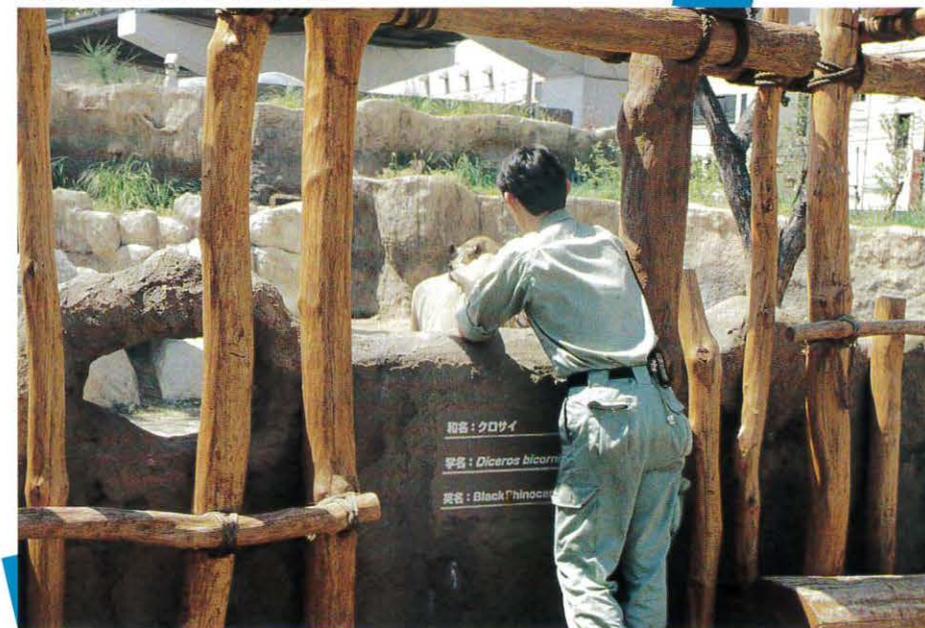


トミー (オス)

pm 4:00

夕方の4時になれば私たちは寢室にもどって楽しい食事よ。トミーがおいしそうに木の枝を食べているわ。

私たちが食事をしている間に仲谷さんは展示場の掃除をしているわ。私たちの糞からも病気になっていないか、機嫌が悪くないかななどを調べてくれるの。



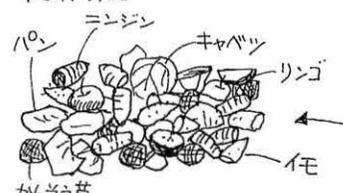
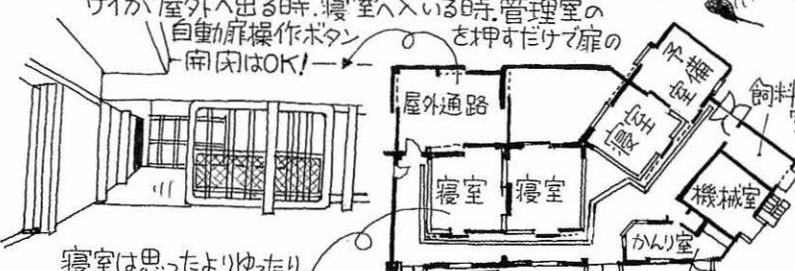
和名: クロサイ
学名: Diceros bicornis
英名: Black Rhinoceros

ケンちゃんの好きやわん動物園 まんが 松葉 健

平成10年9月1日に新しいサイ舎へ引越ししたトミー(オス)とサッチャン(メス)がその後どうしているのか、春の動物園へ行ってきました。



飼育課の仲谷さんに獣舎の中を案内してもらいました。寝室は3部屋と予備室。それに便利な管理室がすごかった。



クロサイはウマ目サイ科と、きいびっくり、ウマの仲間と同じで草食動物とか、えして指が3本。それにしもサイはヨロイを着ているようで、強そうに見えるし、鼻の先にある角がこわい感じだけれど、角が髪の毛やツメのようなものと知って、ウマのように親しい動物に思えてきた。



◎ビューポイント
クロサイをみるのにいい場所です。サイについての解説や絵や写真も掲示されています。それともう1か所、水浴プールのところにも、ビューポイントがあります。

なんといっても広くて気持ちよさそう。水浴プールもあって、生息地のサバンナのイメージでつくられたというだけあって、アフリカの風景が少し楽しめました。

3/1 ●コフラミンゴが6羽入園しました。検査が終わりしだい、フラミンゴ舎で展示する予定です。

3/4 ●ベニロフラミンゴなど3種46羽のフラミンゴ類の切羽を行いました。風に乗って飛んで行くのを防ぐためです。

3/5 ●ヤマシギを1羽保護しました。

3/10 ●ホッキョクグマの母仔の一般公開を始めました。母親について歩く赤ちゃんグマの可愛い姿を見ることが出来ます。5月5日まで名前を募集しています。



3/11 ●ヒツジが1頭生まれました。

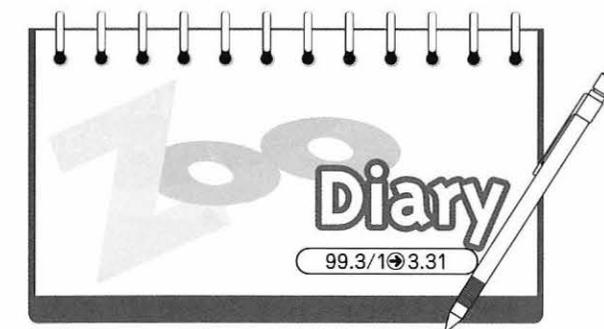
3/12 ●ヒツジの双子(ふたご)が生まれました。

3/14 ●オウサマペンギンが産卵しました。両足の甲の上に卵を乗せ、股(こ)間の皮膚で覆(おお)うようにして抱(た)いています。



3/15 ●カナダヅルとニホンコウノトリが各々1個目の卵を産みました。

3/17 ●繁殖期が近付いたツル類のため、巣材として柳の枝を置きました。早速、幾つかの種類では嘴(くちばし)で枝を集める営巣行動が観察されました。



3/18 ●脱出猛獣捕獲訓練を実施しました。ニホンツキノワグマが脱出したと想定し、職員全員で入園客の誘導・猛獣の追込み、麻酔銃による鎮静、捕獲を行いました。



3/20 ●エゾリスとアカリスが各々1ペア入園しました。検査が終わりしだい、リス舎に展示する予定です。

3/23 ●3月1日に入園したコフラミンゴの検査が終わりしだい、フラミンゴ舎での展示を始めました。

3/25 ●ショウガラゴとスローロリスのメス各1頭が京都市動物園から贈られてきました。検査終了後、夜行性動物舎でオスと同居展示をする予定です。

●フンボルトペンギンがNo.2の巣箱で1個目の卵を産みました。また、アカコンゴウインコが今季最初の卵を産みました。

3/27 ●チンパンジーのメス「アップル」に人工授精を実施しました。

●爬虫類生態館「アイファー」でヒョウモンガメが産卵しました。人工ふ化を試みるため、床面に穴を掘って産み落とした11個の卵を掘り起こし、孵(ふ)卵器に入れました。



お知らせ

第25回サマースクール生徒募集

募集期間▶6月1日～30日

対象▶小学4～6年生(2日間連続して参加いただける方)

日	第1組▶7月20日(火)・21日(水)	いずれも
時	第2組▶7月22日(木)・23日(金)	午前9時30分
	第3組▶7月24日(土)・25日(日)	～午後3時

定員 各組60名(各学年20名) 計180名
応募多数の時は抽選

申し込み 往復はがきに参加希望の組と住所、氏名、保護者氏名、年齢、電話番号、学年名を書いて下記まで(はがき1枚で2名まで申し込み可)

〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-108 天王寺動物園事務所「サマースクール係」まで

天王寺公園・動物園 写真コンクール作品募集

●期間● 4月29日(木)～8月31日(日)

●場所● 動物園・公園

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店



子どものずかんシリーズ

① どうぶつえん

① どうぶつえん

26.5×21cm 各巻定価 本体1,000円(税別)
全国学校図書館協議会選定

動物園にはいろんな動物を見ることができます。
ただ、単に見るだけではなく、その動物の特長や生態、
何を食べているか、またその仲間たちはどんなものか
があるかがこの本でわかります。さあ、この本を持って
もう一度動物園へいってみよう。

お求めは、お近くの書店で。

ひかりのくに株式会社 本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2 TEL.06-6768-1151 代表



マスターのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

〒561-0856 大阪府豊中市穂積1-10-30
(株)増田食品 TEL (06)6865-0165

FUJIFILM
I&I-Imaging & Information

新発売

楽しいショットを
3つのサイズで。

ADVANCED
PHOTO SYSTEM



FUJICOLOR スーパー
スリム
APSフィルム使用

切替

撮影シーンに合わせて、
標準・ハイビジョン・パノラマのサイズを自由に切替。

- スーパースリムの手軽さにプリントサイズ選びの楽しさプラス。
- APSフィルムだからインデックスプリントも。
- 切替はファインダーも連動、見たままのフレームでパチリ。

カラの大林

桜橋本店 ☎6341-8091
阪急三番街店 ☎6372-5031

狼と生きて

父 平岩米吉の思い出



平岩由伎子[編著] ●新刊
3,500円+税 ●限定1000部

狼と犬と猫の生態を研究し、動物文
学をはじめて世に紹介した平岩米吉
の波瀾に富んだ創造性豊かな生涯を
娘の眼から深く描く。
夏の旅の思い出、ふしぎな巡りあわ
せ、動物画家・大崎善司、日本好き
のスター博士など、名品を掲載。

平岩米吉の本

狼 その生態と歴史
2,600円+税

犬と狼
●2刷出来 2,500円+税

犬の生態
●6刷 2,000円+税

犬の行動と心理
●4刷 2,000円+税

私の犬
2,200円+税

猫の歴史と奇話
2,200円+税

動物文学 復刻版 [全10巻+補巻・索引]

174,757円+税 ●限定300部(分売不可)
南方熊楠、柳田国男、小川未明……錚々たる執筆陣が数々
の作品・論考を寄稿し発表した幻の戦時中資料。

① 築地書館 〒104-0045 東京都中央区築地7-4-4-201 TEL03-3542-3731 FAX03-3541-5799 (発送料一律400円)
●ご注文は、最寄りの書店または直接上記宛先まで。E-mail Address=JDH07647@niftyserve.or.jp

新作
貸出用「楽しい天王寺動物園」
ビデオ 19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキで
お申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

天王寺動物園の本
入園の記念・手引に……

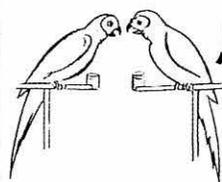


オールカラー
500円 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)6771-0201



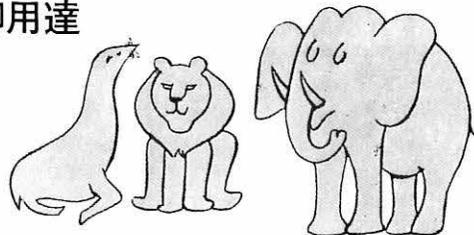
近畿 コカ・コーラ ボトリング 株式会社
KINKI COCA-COLA BOTTLING CO., LTD. (コカ・コーラ指定会社)
Coca-ColaとCokeはThe Coca-Cola Companyの登録商標です



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話06-6762-2333
1回 30円

動物園内での
お食事、
ご休憩は

動物園内.....

中央売店

TEL06-6771-0973



お食事・飲み物・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL06-6771-7110



天王寺動物園 MAP

天王寺公園



阪神高速松原線

動物園入口

- 入園料 動物園/大人500円 公園/大人150円 中学生以下、65歳以上無料
- 開園時間 午前9時30分~午後5時(入園は4時まで)
- 休園日 毎週月曜日(月曜日が休日に当たる場合は翌日休園)

大阪市天王寺動植物公園事務所 〒543-0063大阪市天王寺区茶臼山町1-108 TEL.06-6771-8401



365日、毎日毎日骨太に。



牛乳のカルシウム吸収のよさそのままに、
1本で1日分のカルシウム。



カルシウムを摂るなら牛乳や乳製品が理想的。それは、牛乳のカルシウムは、とても体に吸収されやすいからです。この牛乳のカルシウム吸収のよさはそのままに、カルシウムの量を600mg (成人1日あたりの所要量) までアップさせた、雪印毎日骨太。日本人に不足しがちなカルシウムを、効率よく補給するために、ぜひ毎日お召し上がりください。



雪印 毎日骨太

300ml・100円 / 希望小売価格 (税別)



ほんとに楽しいネ!



中央デッキ下

一日、愉快地のしめる

◎園内2カ所 (中央デッキ下・南園高架下) に、各種のりものがあります。



南園高架下

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 4397-0100 (代)

編集委員

中尾啓一 / 中川哲男 / 藤田四郎 / 石井 等 / 山崎道正 / 沖田紀行 / 長瀬健二郎 / 谷森 進 / 長澤英資 / 森本委利 / 高橋雅之 / 市川久雄 / 竹田正人 / 高見一利 / 中上正幸 / 満 勇二 / 萩原祐二 / 坂本 全 / 山元貞幸 / 野口秀高 / 大野尊信 / 早川 篤 / 村上勇一 / 西村慶太 / 油家謙二